

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
49	ヨーロッパ	☑ 18	ヨーロッパの国々は、およそ北緯35度から北緯70度の間に位置しており、日本よりもかなり北にある。
51	ヨーロッパの鳥瞰図	☑ 19	①・②図から、ヨーロッパの地形は、アルプス山脈は急峻な山脈であるが、その北側には平原地帯が広がっているという特徴が読み取れる。p.206⑥図では、アルプス山脈は変動帯、その北側の平原地帯は安定地域にあてはまることが読み取れる。
57	地中海地方	☑ 20	ナイル川河口の円弧状三角州は規模が大きい、テヴェレ川河口のカस्प状三角州はこの縮尺ではわからないほど小さい。
60	イベリア半島、スイス	☑ 21	フランス・スペイン・イタリアの外国人旅行者受入数が多い。これらの国々は地中海に面しており、⑤図からドイツやイギリスなどヨーロッパ内からの旅行者が多いことがわかる。これは、余暇を気候の温暖なリゾート地で過ごす人が多いためと考えられる。
61	イタリア半島・バルカン半島	☑ 22	稲作地は、ポー川の上流域でアルプスの麓から平野部に出た一帯に広がっている。
63	イギリス・アイルランド	☑ 23	ペニン山脈の西側にあるランカシャー地方のほうが偏西風の影響で降水量が多く、東側にあるヨークシャー地方のほうが降水量が少ない。(この差がランカシャー地方に綿工業、ヨークシャー地方に羊毛工業が発達する自然条件となった。)
66	ヨーロッパ主題図	☑ 24	民族が入り組んでいる国は、ボスニア・ヘルツェゴビナで、クロアチア人やセルビア人、ムスリム人などが暮らしている。
69	【Global Eye】ヨーロッパ	💡 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
70	【Global Eye】ヨーロッパ	🔍 探究	1a図と2a図の比較から、1995年以前のEU加盟国では、経済的に豊かなドイツを中心とする中部から北部の地域と、経済的に豊かではないイタリア南部やスペイン、ギリシャといった地中海地域との経済格差が大きいことが読み取れる。21世紀になって、EUは東ヨーロッパに拡大したが、ここは経済的に豊かでない国が多いため、豊かな西側諸国との間で東西の経済格差が広がった。貿易では、EUの拡大により加盟国が増えたことで大きな経済圏となり、4b図から、域内の貿易額が他地域との貿易額よりも抜き出ていることが読み取れる。また、4b図からは、EU域内だけでなく、世界との貿易も活発に行われていることが読み取れる。人の動きは、3a図のように、EU域外から人が多く集まっていることがわかる。また、EU域内では、東ヨーロッパからドイツなど経済力がある国への移動も多いことがわかる。
75	ロシア・ロシア周辺主題図	☑ 25	不凍港は、ノヴォロシースクなど黒海の港、バルト海のヴェンツピルス、北極海のムルマンスク、日本海のウラジオストク、ナホトカなど。(ロシア帝国や旧ソ連、ロシアにとって、不凍港は重要な役割を果たしてきた。)
76	【Global Eye】ロシア	💡 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
76	【Global Eye】ロシア	🔍 探究	2図からわかるように、ロシア連邦は、ウラル山脈周辺をはじめとする原油、オビ川下流を中心とする天然ガスなど、豊富な地下資源に恵まれている。これらは、1c図から輸出の中心的存在であるが、その相手国は、1図から読み取れるように、その時々政治情勢を反映して、片寄ったものになっている。
78	北アメリカ	☑ 26	p.2ではグリーンランドはアメリカ合衆国本土と同程度、アラスカは本土の半分ほどの面積にみえてしまう。これは、p.2のミラー図法は、高緯度ほど面積が拡大されているからで、p.77は正積図法なので面積は正しい比較ができる。
79	アメリカ合衆国	☑ 27	西経100度の西側では、ロッキー山脈を中心に山が多いが、東側では、中央平原を中心に平野が多い。

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
81	北アメリカの鳥瞰図	☑ 28	①・②図から、アメリカ合衆国の地形は、西部は急峻なロッキー山脈があり、中央部は広大な平原が広がり、東部はなだらかなアパラチア山脈があるという特徴が読み取れる。p.206⑥図では、ロッキー山脈は変動帯、中央部の平原地帯は安定地域の平野、アパラチア山脈は安定地域の山地にあてはまることが読み取れる。
88	北アメリカ主題図	☑ 29	④a図から、全体的にヨーロッパ系の割合が高いが、南部ではアフリカ系の割合がほかより高く、西部の太平洋岸やハワイではアジア系の割合がほかより高い地域がみられること、西部のロッキー山脈周辺部やアラスカではネイティブアメリカン・太平洋諸島民の割合がほかよりも高い地域がみられることが読み取れる。また、④b図から、西部から南部のメキシコ国境に近い州やフロリダ州ではヒスパニックの割合がほかよりも高い地域がみられることが読み取れる。④d図から、移民出身地はヨーロッパ系から中南米やアジアに中心が移っていることがわかる。また、④・⑤図から、アフリカ系やヒスパニックの割合が高い州では、貧困率が高い傾向が読み取れる。
89	北アメリカ主題図	☑ 30	肉牛の飼育頭数が多い州は、1965年では①図からとうもろこし・大豆地帯と重なることがわかる。2023年では中心が西にずれており、④b図からオガララ帯水層の灌漑地との関連性が読み取れる。
90	北アメリカ主題図	☑ 31	製造業の従事者割合や従業者数は、全体で減少している。1970年では北東部の五大湖沿岸の州などで特に割合が高かったが、2021年では大きく割合が減少している。この地域は、⑤図から自動車や機械、鉄鋼・金属などの重工業地域であったと読み取れる。
91	北アメリカ主題図	☑ 32	アメリカ合衆国の情報産業は、①c図から、身近に使っているスマートフォンOSやSNSで高いシェアを占めており、世界の産業や人々の生活に大きな影響を与えていると考えられる。これらの情報産業やこれを技術的に支える先端技術産業は、①a図や②a図から海岸部や南部を中心にみられ、特に②b図のシリコンヴァレーには、世界のハイテク企業が集積していることが読み取れる。
92	【Global Eye】アメリカ合衆国	💡 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
92	【Global Eye】アメリカ合衆国	🔍 探究	1a図から、アメリカ合衆国はEUなど世界に向けて工業製品などを輸出しているが、1b図から、それ以上に大量の工業製品や原油を輸入していることが読み取れる。特に、輸出入額の差が大きい国は中国で、大幅な貿易赤字になっている。また、2図から世界各国の直接投資がアメリカ合衆国に集まっており、2a図の証券取引所の時価総額や2b図の企業の時価総額の大きさや順位から、アメリカ合衆国の経済や企業活動が世界の経済に大きな影響を与えていることがわかる。
95	南アメリカ	☑ 33	南アメリカで最も赤道に近い首都は、エクアドルのキトで標高は2794m。このほか標高2000m以上の首都は、ボリビアのラパス4058m、コロンビアのボゴタ2547mがある。
98	南アメリカ要部	☑ 34	アマゾン川の可航上限周辺にある都市はペルーのイキトス。p.109①図と比較するとアマゾン川の河口から最上流部までの直線距離は、島しょ部を含めた日本列島の距離とほぼ同じであり、その流域には日本の排他的経済水域の面積を超える熱帯林が広がっている。
99	【Global Eye】南アメリカ	💡 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
99	【Global Eye】南アメリカ	🔍 探究	1図や2図から、南アメリカでは農産物や鉱産物などさまざまな一次産物を産出しており、これを世界の国々に輸出していることが読み取れる。ブラジルでは、3a図や3b図から特に大豆の生産が伸びており、3図と4図の比較から生産量の多いマト Grosso州では、牧場の開発などとともにアマゾンの森林減少の一因になっていることが推測できる。

解答(解説)

※「SDGs」、Global Eyeページの「視点」・「探究」の解答(解説)も含まれます。

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
100	南北アメリカ・大西洋	☒ 35	北アメリカ大陸のほぼ中央を通る経線は西経100度、南アメリカ大陸のほぼ中央を通る経線は西経60度で、40度の差がある。
102	オーストラリア・ニュージーランド	☒ 36	南回帰線は、オーストラリアの中央よりやや北、日本標準時子午線は、オーストラリアの中央よりやや東を通っている。
106	太平洋	☒ 37	日付変更線が直線でない理由は、ロシアのチュコト半島のように180度の経線をまたぐ地域が、同じ国内で日付がずれてしまう不都合をなくすためである。日付変更線が一番東に飛び出している国は、キリバスである。
107	太平洋の島々	☒ 38	④ツバルは環礁、⑤タヒチ・モーレア島はそれぞれ裾礁、⑥ボラボラ島は堡礁。一般的にサンゴ礁の発達は、本島が沈降するので、⑤→⑥→④の順になる。
107	【Global Eye】オセアニア	 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
107	【Global Eye】オセアニア	☒ 39	裾礁は沖縄などの南西諸島、堡礁はメラネシアやオーストラリア沿岸部、環礁はミクロネシアに多い。このうち海面上昇の影響を特に受けやすいのは環礁で、本島が沈降してサンゴ礁の部分しか残っておらず標高が低いためである。
107	【Global Eye】オセアニア	 探究	エルニーニョ現象が発生すると、暖水域が東にずれるために、上昇気流で低気圧ができる場所も東にずれる。ラニーニャ現象が発生すると、暖水域が西に集まるため、ここで上昇気流が強くなり発達した低気圧ができる。(この結果、日本では、エルニーニョ現象が発生すると冷夏で暖冬、ラニーニャ現象が発生すると夏は酷暑で冬は酷寒になる傾向があるとされている。)